

4 評価の結果について

各事業の評価結果は、7ページ以降の各事業評価シートに掲載しています。

業績測定指標の実績について、目標値と比較すること等により、事業の進捗状況について評価したものになります。

評価結果を見ると、どの事業も概ね順調に進捗していますが、評価対象の事業は、平成23年度から平成25年度を計画期間とした3か年実施計画に掲載された事業のうち平成22年度以前から継続実施している事業であるため、事業担当部署が計画に基づいて事業を実施し、それを評価していくのは平成23年度以降になります。

評価の結果は、3か年実施計画の策定や予算編成等において、積極的に活用していくことが重要です。

限られた財源の中、3か年実施計画や予算編成の担当部署にとっては、事業の取捨選択等にあたり、この評価結果を事業のあり方や方向性を総合的に判断していくための重要な判断材料の一つとして活用できます。

一方で、事業担当部署にとっては、計画の策定段階から事業の目標や成果を考えて業績測定指標を設定し、その指標によって事業の進捗状況を管理していくことになるため、目標達成を意識した事業展開に繋がり、意識改革が図られます。

5 今後の事業評価制度について

本市が目指す事業展開は、御殿場型NPMにも掲げているとおり、計画や予算、評価がそれぞれに機能するのではなく、それらがトータルで機能するような体系を整備したうえで、PDCAサイクルが機能することです。

その実現に向けた新たな取組みとして、3か年実施計画に掲載する各事業に「業績測定指標」を設定しました。この業績測定指標を一つのツールとして、計画策定、予算編成、評価の各過程に浸透させることにより、トータルで機能する体系の構築を目指します。

このような方針のもと、今年度以降の事業評価は、業績測定指標の実績から事業の進捗状況を評価することとしましたが、今後も評価を続けていく中で、その実効性を高めていく必要があります。

そのためには、各事業に設定する業績測定指標について、事業の目標達成を測るためにはこの指標で良いのか、というような指標自体の妥当性の検証や、妥当性が確保されていても、その指標に設定した目標値が最適なのか、といった目標設定の的確性についての検証を継続して行っていかなければなりません。

併せて、評価方法の工夫や、今年度から本格導入した事業仕分けなどの別の仕組みとの連携も視野に入れながら、事業の費用対効果を最大化するための評価の実施に向けた研究を進めていきます。